

## 2021年10月17日(日)こんぶくろ池「きのこ観察会」

- 実施時間:午前10時～正午まで
- 当日の天気:午前9時ごろ 15.6℃ 雨5.5mm 風速 北北東 0.8m/s
- 参加者: 一般 参加者13名(うち子ども4名) NPOこんぶくろ池自然の森 20名

A、小泉講師班は弁天池側から出発。雨は強くなるばかり・・



B、根田講師班はこんぶくろ池側からの出発。



前日、16日の下見時に橋本谷さんと園路や観察場所のチェックをしましたが、今年は全体的にきのこの発生が少なく心配になりました。

しかし、観察会当日は雨のなか参加者さんがとても真剣にきのこを探してください、たくさん発見することができました。見つける人の目が多いほど、成果が上がります！



←星型の可愛らしいきのこ、エリマキツチグリが今年は多く発生していました。

地面に★が落ちているように見えますが、実はきのこの下をめくってみると、落葉に菌糸がびっしり。マット状に落ち葉がつながっています。菌糸が落ち葉を分解して栄養を得ている様子が見られます。

実は、この菌糸こそがきのこの本体。★は胞子を発生させる器官「子実体(しじつたい)」と言い、植物に例えると花や果実のような部分、とのことです。

胞子を飛ばす方法はきのこによって、いろいろ違いがあり、このエリマキツチグリは胞子が入った袋状の部分に外圧が加わることで、粉状の胞子が飛び出していきます。

他にホコリタケの仲間なども同じ方法で胞子を放ちます。雨粒があ



たっても胞子が飛ぶので、この日は彼らにとっては、胞子活動日和だったのかも？

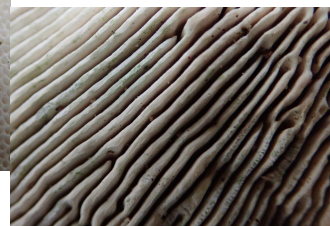
今年、一度春先にこんぶくろの森で見られたベニタケの仲間やテングタケの仲間なども再度発生していましたが、毎年この時期に記録されていたスポンタケなど秋のきのこが今年は少ない気がしました。これから発生する可能性もあるので気を付けて見ていきたいです。

また、倉庫前に積み上げられた伐採木からたくさんの硬いきのこが発生していました。採集して裏面(胞子がつく側)を見てみるとそれぞれ違いがあることに気が付きます。

ヒダの形状に特徴が出るので、ここを観察するのがきのこを見分けるひとつのポイントです。

(←クジラタケ?)

(カイガラタケ↓)



園路で観察後、AB班、採集したきのこを並べて講師からの説明を聞きました。

森の中でいろいろな生き方をしているきのこ。森の植物の多くは菌類と共生していて、菌糸を通して栄養を得たり、逆に菌類に栄養を渡している、とのことでした。特定の植物(樹木)としか自然下では共生しない菌類もいるとか。

こんぶくろの森周辺地域で昔よく食べられていたハツタケも赤松と共生するきのこですが、松が減少するにつれて共に見られなくなっていました。

最近、よく見かける橙色の美しいきのこ、ヒイロタケは木材を分解し栄養を得ているきのこですが、樹木を選ばず高温にも強い、という事を聞きました。

また参加者からは「きのこの毒は何のため?」という質問が出ました。毒の成分自体は解析がすすんでいます、きのこが毒を持つ目的はまだはっきりと解明されていないとの事でした。



毎年、決まった時期にきのこ調査をしています。同じ時期でも出たり出なかったり、初めての出会いがあったり、、、きのこの生態はまだまだ謎だらけで興味は尽きることがありません。雨の中なかの観察会でしたが、安全に、楽しく観察することができました。

(2021.10.17 報告者 川瀬美幸)※きのこ一覧表は後日提出

